

宮城の将来ビジョンの政策・施策体系と目標とする宮城の姿【宮城宮城の実現～県内総生産10兆円への挑戦～】

政策1 育成・誘致による県内製造業の集積促進

取組1 地域経済を力強くけん引するものづくり産業(製造業)の振興

- 本県製造業において主要な位置を占める高度電子機械産業などを中心に、生産性や付加価値創出が大きく向上している。
- 自動車関連産業の集積が進み、他産業や雇用に大きな波及効果をもたらすなど、地域経済のけん引役として県内製造業を支えている。
- 地域経済の再生・成長に寄与する大規模な企業や、成長市場関連の企業など、国内外からの企業立地が進んでいる。
- 次代を担う産業の芽が出て、関連産業の集積が始まっている。
- 製品出荷額が増加し、県内製造業が地域経済を力強くけん引する役割を担っている。

取組2 産学官の連携による高度技術産業の集積促進

- 東北大学等県内の学術研究機関の持つ高度な技術シーズと、それを事業化する企業との連携が進んでいる。
- 新たな技術や製品を提供するベンチャー企業と既存の企業との連携が進み、成長が見込まれる市場での企業活動が活発に展開されている。さらに、そうした活動によって産業集積が進んでいる。
- 知的財産・未利用特許等を利用して開発された競争力の高い製品を持つ企業や、世界に通用する独自技術を持つ企業など、存在感のある企業の数が増加している。
- 県内企業が、技術の高度化の段階に応じて、成長が見込まれる新分野へ次々と参入を果たしている。

取組3 豊かな農林水産資源と結びついた食品製造業の振興

- 県内の食品製造業と、農林水産業の連携が進み、地元の素材を生かした安全安心な商品が生まれる等、加工食品の高付加価値化が進んでいる。
- 「食材王国みやぎ」のブランドイメージが全国的にも浸透し、県産食材等の市場評価が高まることで県産農林水産物を活用した加工食品への需要が拡大している。
- 県産加工食品の商品開発や販路回復・販路拡大が進み、東アジアや東南アジアを中心とした海外市場にも進出している。
- 商品の高付加価値化や経営効率の向上により製造品出荷額等が増加し、県内食品製造業が成長している。

政策2 観光資源、知的資産を活用した商業・サービス産業の強化

取組4 高付加価値型サービス産業・情報関連産業及び地域商業の振興

- 多様なサービス市場の拡大等経済構造の変化に対応し、高付加価値な事業活動を展開する各種サービス事業者の集積が図られている。
- 中心市街地の再生が進み、消費者ニーズにこたえる魅力ある商店街づくりが進んでいる。
- 情報関連産業が集積し、全国・世界に通用するノウハウや技術力を持った企業の数が増加している。
- 商業・サービス産業全体の高付加価値化が進展している。

取組5 地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現

- 宮城の魅力が絶え間なく国内外に発信され、観光地みやぎのイメージが定着している。
- 自らの住む地域に誇りを持ち、観光のもたらす効果が県民に理解されるとともに、自然環境や食文化など地域の観光資源が磨き上げられ、観光客に対する質の高い受入態勢が整備されている。
- 外国人や高齢者、障害者、乳幼児同伴者など、だれでも訪れやすい観光地づくりが進んでいる。
- 仙台空港の機能強化や新幹線延伸に伴い、東北広域観光の拠点として、国内外から多くの観光客が訪れている。
- 観光客入込数が、東日本大震災による影響から回復し、訪日外国人旅行客が大幅に増加している。

政策3 地域経済を支える農林水産業の競争力強化

取組6 競争力ある農林水産業への転換

- 消費者からの高い信頼を得て、全国的にも高い知名度を誇り、「食材王国みやぎ」を代表するブランドとして確立された、農林水産物が増加している。
- 生産規模の再編等による効率的な生産体制や販売体制、企業的経営感覚を有した生産者や法人の数が増加している。
- 東アジアや東南アジア市場なども視野に入れた、グローバルな視点に立った農林水産業の新たな展開が始まっている。
- 食品製造業や卸小売業、外食産業等との連携や6次産業化に取り組む農林漁業者が増加している。

取組7 地産地消や食育を通じた需要の創出と食の安全安心の確保

- 安全安心な食材、食品が提供され、生産から消費までの各流通段階で生産履歴等の正確な情報の共有が進み、食の安全安心に対する相互理解が進んでいる。
- 農林漁家レストランや学校給食等で地域食材が利用されることにより、地域食材の認識が深まり、地産地消が浸透している。
- 地産地消や食育の普及によって、健全な食生活や食べ物を大切にする意識が向上する等、食に関心を持つ県民が増えている。
- 「木づかい運動」等の推進により、県産木材への認識が深まり、地元の木材を利用した住宅や施設が増加している。
- 地産地消の取組や食育を通じて、安全安心に対する信頼性の高い県産食品への需要が拡大している。

政策4 アジアに開かれた広域経済圏の形成

取組8 県内企業のグローバルビジネスの推進と外資系企業の立地促進

- 国際競争力のある製品・技術を有する企業が多く出現するとともに、多数の県内企業が海外に進出し、経済交流が進んでいる。
- 県産農林水産物やその加工品が海外市場でブランドを確立し、相当程度の数量が取引されている。
- 外資系の研究開発型企業や高度な技術を持った企業が県内に立地し、共同研究や各種取引が進展している。

取組9 自立的に発展できる経済システム構築に向けた広域経済圏の形成

- 東北各県との間でそれぞれが保有する資源や特性を生かした機能分担・協力体制の構築など連携が進み、自動車関連産業分野をはじめとして各種産業政策が展開されている。
- 仙台、山形の両都市圏を中核に一体的圏域を形成する山形県との連携が着実に推進されるとともに、隣県の岩手県や福島県をはじめ、東北各県とも効果的な連携が進んでいる。
- 観光や文化的な活動において、連携の相乗効果により、それぞれの地域の魅力がさらに高まり、国内外からの交流人口が増加している。

政策5 産業競争力の強化に向けた条件整備

取組10 産業活動の基礎となる人材の育成・確保

- 産業活動において新たな付加価値を生み出すビジネスモデルを企画立案する人材、その実践を支える人材、さらには、新たな分野へ挑戦する経営者、そのための技術革新を担う人材の育成・定着が進んでいる。
- 職業に関する高い意識や勤労意欲を持つ就労者や学生、起業意欲のある人材が増えている。
- ものづくりを担う人材育成が進み、県内製造業の技術革新を支える中核的な人材が安定的に確保されるとともに、世代交代が円滑に進み、技術が継承されている。

取組11 経営力の向上と経営基盤の強化

- 優れた経営能力を有する経営者が増加し、時代の変化を先取りした高い収益を確保できる企業が増えている。
- ベンチャー企業や新しい市場に積極的に進出する企業が増えるとともに、企業等の事業再生などが図られている。
- 企業のあらゆる経営局面に応じた多様な資金調達方法や支援体制が構築され、活力ある企業活動が展開されている。

取組12 宮城の飛躍を支える産業基盤の整備

- 仙台塩釜港は、仙台、塩釜、石巻及び福島各港区の特色や特性を生かしながら、東北唯一の国際拠点港湾として、東北地方の持続的な経済成長を支える国際的な物流拠点として発展している。
- 仙台港区は国際物流及びエネルギー産業の拠点として、石巻港区は製紙産業・木材・飼料を中心とした工業港として重要な役割を担っている。
- 仙台空港は、東北の空の玄関にふさわしい豊富な航空路線を有し、東北の中核空港として国内外からの利用者が増加するとともに、周辺地域には、空港機能を生かした産業が集積している。
- 広域的物流・交流や広域連携強化のための道路網が構築され、県内各地域の移動時間が短縮されている。
- 低廉豊富な工業用水道が安定供給され、工業用水利用型企業の事業活動が活発になっている。

※枠で囲まれている部分が「目標とする宮城の姿」です